

授業科目 聴覚障害 III

【担当教員名】 吉岡 豊		対象学年	2	対象学科	言語
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解		思考・判断		態度	
◎		◎		○	
【概要・一般目標：GI0】 聴覚障害児・者にとって必要な補聴器・人工内耳について理解し、視聴覚二重障害児・者についても知る。					
【学習目標】					
<ol style="list-style-type: none"> 補聴器の種類と適応を理解する。 補聴器に関する用語を説明する。 補聴器の調整装置の効果を記述できる。 聴覚機能検査に結果と補聴器の出力特性を関係づける。 補聴器装用効果の測定する。 訴えに応じて補聴器を調整できる。 人工内耳の構造とマッピングについて理解する。 視聴覚二重障害児・者の特性と評価方法について理解する。 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	補聴器の種類と適応			1	
2	補聴器に関する基本用語と特性表の見方			2	
3	補聴器の出力を調整する方法			3	
4	聴覚機能検査結果と補聴器適合への流れ			4	
5	挿入利得の算出方法			4	
6	利得算出、装用効果測定、訴え対応			4, 5, 6	
7	人工内耳について			7	
8	視聴覚二重障害児・者について			8	
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		聴覚検査の実際 改訂3版	日本聴覚医学会 編	南山堂	2009・3,400円＋税
		改訂第3版 補聴器フィッティングの考え方	小寺一興	診断と治療社	2010・3,200円＋税
参考書		言語聴覚士のための聴覚障害学	喜多村 健	医歯薬出版	2002・4,000円＋税
その他の資料					
【評価方法】 2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。成績は原則として定期試験の点数をもって行う。			【履修上の留意点】 補聴器は自分で操作して音を聞くことが学習の早道です。また、音響学や聴覚心理学、聴覚機能検査、聴覚障害に関する知識も必要になってくるので十分に復習しておいて下さい。		